

しいのき



今年でラジオ体操86歳

館長 比田井 克仁

誰もが知っているラジオ体操ですが、はじまりは意外と古いのをご存知ですか？昭和3年（1928）11月に当時の通信省簡易保険局によってNHK放送がはじまりました。上の写真は昭和7年から16年頃のラジオ体操に関するもので、当館所蔵のポスターです。おなじみのピアノの音が聞こえてきそうです。

左のポスターは絵本画家の唄野蛾生（ばいのがせい）の絵によるものです。右のポスターの左下には「社団法人生命保険会社協会」と印刷され、保険業界が積極的に協力している様子がうかがえます。保険業界としては長生きと健康は顧客確保・商売繁盛につながるのでしょう。なんとも正直なところですね。

さて、東京オリンピックも決まり、今後はスポーツや健康に注目が集まります。当館でも、これらを題材にしたコーナー展など、関連する昔の資料を紹介していく予定です。ご期待ください。

文化財よもやま話

いろいろなはかり展を終えて

5月31日(土)～7月27日(日)まで「いろいろなはかり」展を開催しました。さまざまな「はかる」ことに用いられた道具と、半世紀ちかく前に公式に使用することを禁じられた尺貫法による言葉がいまも身近に使われている事例を紹介したものです。

展示していて感じたのは、はかる分野によって、新しいものが次々と更新されるものと、比較的古い形を保つものにわかれるということでした。

物差しは、竹製だったものがプラスチックなどに素材の主流が移っても、細長いものに目盛りをつけて読み取ることは変わりません。しかし、計算する分野になると、そろばんで珠をはじいていたものが手動式計算機、機械式計算機となって金属製で大きな卓上タイプのものに変わりました。電動式を経て、電子回路を組みこんだ電子計算機が登場すると、小型化/軽量化されハンディタイプへと進化し計算速度も高速化しました。いまやスーパーコンピューターが1秒間に計算できるのは京の単位です。近い将来、さらにその上をいくに違いありません。

ホームコンピューターと言われていたものが、パーソナルコンピューターになり、多機能をもちあわせインターネット回線であらゆるところとつながるようになりました。もはやコンピューターを計算するだけの機械などと想像する人はいないでしょう。その驚異的な進化をみていると、計算機という役割の側面から考えて、80年代以降のものをひとつずつ集めるだけでも、計算機の流れを知るコレクションになります。

今回の展示で一番新しい計算機は、昭和末年に生産されたものでしたが、90年代以降に作られたものも地道に集めておいたほうがよいのではないかと感じました。集めれば50年後にはきっと貴重なコレクションになることでしょう。



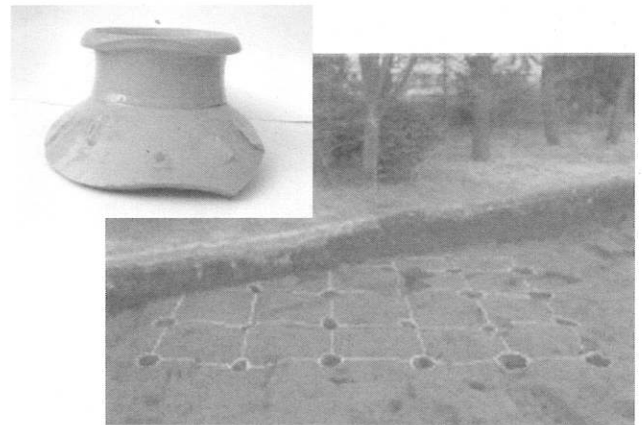
大地に眠る歴史

中野区の遺跡(13)

前号で、8世紀までの遺跡の状況を述べてきましたが、その後9～10世紀の遺跡は今のところ発見されていません。最近11世紀のお墓が江古田遺跡で検出されましたが、調査途上であるため現在、細かな検討を行っているところです。

13世紀後半から15世紀初頭の遺跡は2003年に調査された江古田遺跡(東京警察病院看護専門学校地点)が挙げられます。掘立柱建物跡2棟・井戸跡・地下式坑2基・火葬土坑・溝などが段切により平坦に整地した約500㎡の範囲に発見されています。なかでも地下式坑の底の土からはリンが多量に検出され、墓であることが判明しました。

出土遺物は、白磁四耳壺片や瀬戸美濃の陶器・奈良火鉢・カワラケなどで、このうち白磁四耳壺片は中国の宋からの輸入品で大変珍しく、通常は京都・鎌倉の有力者の居館や寺院・経塚といった特別な場所で発見されるものです。



白磁四耳壺と掘立柱建物跡(白磁は柱穴から出土)

それでは、こんな珍しい遺物や墓などがある江古田遺跡とは、どんな遺跡だったのでしょうか?

古くからの土地の言い伝えによると「大昔寺山の地にあったという江古寺の存在である。(中略)江古寺の在った地は江古田氷川神社の裏地に当たる小字寺山の地名が残る三万余坪の地」(堀野良之助『江古田のつれづれ』より)とされており、江古田遺跡がまさしくこの地に一致しているのです。遺跡の内容も寺院と考えてもおかしくありませんので、江古田遺跡=伝説の寺「江古寺」の可能性は極めて高いものと考えられます。

(つづく)

新指定・登録文化財紹介

国および地方公共団体には、様々な文化財のうち特に秀でたものを指定し、あるいは登録する制度があります。2013年度、新たに区の文化財として1件が指定され、国の文化財として4件が登録されましたのでご紹介します。

文化財の指定制度…重要で保存の必要な文化財を国や地方公共団体が指定します。指定されると文化財保護法や文化財保護条例で保護の対象となります。

文化財の登録制度…指定されていない文化財のうち、保護が必要と考えられるものが選ばれます。登録されると緩やかな規制により保護されることとなります。

区指定有形民俗文化財

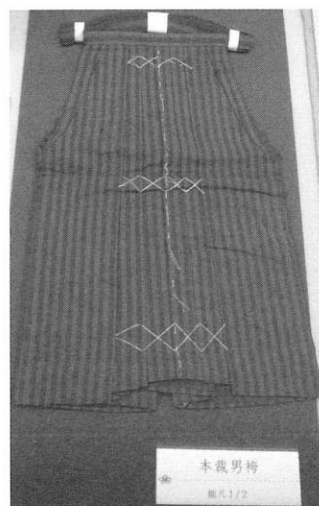
「裁縫ひな形」ほか関連資料 [中野区指定有形文化財：登録・指定第119号]

「裁縫ひな形」とは、ミニチュアを作成することにより本格的な裁縫技術を学ぶことを目的に考案されたものです。明治初期に発案され、その後女子師範学校など全国に広がりました。しかし、戦時中の物資の窮乏とともに行われなくなり、戦後は消滅してしまいました。

裁縫ひな形は、その性格上、家政系大学・専門学校に学生の制作品が残されている例が多いのですが、本資料は、裁縫学校を卒業し、後に裁縫教室を開いた女性が在学中に作成した作品を手許に残したものです。技術的にも高度であり、生地への傷みはほとんどなく、しつけ糸も残されている等、保存状態はきわめて良好です。

また、教本とそれを実践した裁縫ひな形の双方があることにより、すでに行われなくなった指導方法が再現できる条件が整っている点は重要です。

以上のことから、当時の裁縫技術や教育水準など得られる情報は多く、指定文化財として後世に残し伝えていく資料としての価値は高いものと判断されます。



新指定を記念し、紹介展示を行いました。

本裁男袴

1/2の物差しで作られていますので、面積は
縦1/2×横1/2=1/4
になります。

国登録有形文化財

中村家住宅洋館（中野1丁目）

明治時代後期に現港区内に建造、大正4年（1915）現在地に移築されました。現建物のうち西側洋館部分が文化財登録部分です。

屋根は日本瓦葺き、外壁は横板張りで、1階は玄関・寝室・居間・廊下、2階は洋室・和室・廊下で構成されています。1階、2階洋室北側には暖炉があり、2階暖炉は細かな彫刻を施した大理石で構築され、天井は木製の装飾を廻した板張りです。

玄関部分のステンドグラスなど大正期の後補もありますが、全体として、外装内装とともに、明治期の特徴を濃厚に残しています。



←玄関付近

↑2階洋室

細井家住宅主屋（上高田3丁目）

安政4年（1857）の建築で、昭和13年（1938）・昭和29年（1954）に改修されています。

寄棟造棧瓦葺（元は茅葺）で東側を正面とし玄関を構えます。南半分の居室は表側に座敷と次の間、裏側に寝室と仏間を配します。区内民家の古い例で武蔵野の農家の佇まいを残しており、国土の歴史的景観に寄与しているものとして評価されました。



←正面

↓廊下より庭を見る



萬昌院功運寺 庫裏（上高田4丁目）

大正8年（1919）、旧萬昌院の仮本堂兼庫裏として建てられたと「再建趣意書」にあります。境内の中央西寄りにある木造平屋建築で、入母屋造棧瓦葺。玄関から取次の間を経て南北に中廊下が通り、周りに座敷・仏間・数寄屋風の方丈があります。全体に丁寧な造作の近代和風建築です。



←玄関付近

↓右側方向



萬昌院功運寺 鐘楼（上高田4丁目）

寛延2年（1749）頃、旧萬昌院にて建てられ、大正3年（1914）現在地に移築されました。

高い石積の基壇上にあり、入母屋造本瓦葺です。内側へ傾斜する柱に支えられた格天井という格式の高い天井があります。籠彫の頭貫木鼻・獅子形の虹梁木鼻・虹梁上の慕股など、要所を豊かな彫刻で飾ります。



↑鐘と柱の彫刻



←高い段の上に建つ

萬昌院功運寺 山門（上高田4丁目）

破風板の墨書により大正3年（1914）の建立と確認できました。平成22年（2010）に棧瓦葺を本瓦葺に改修しています。

高麗門という格式の高い造りで切妻造本瓦葺。控柱と袖塀は棧瓦葺です。棟木まで伸びる本柱は角柱で軒は二軒繁垂木、門扉と袖塀は豎格子となっています。ケヤキの良材を用い、施工も上質です。

萬昌院功運寺のこれら三棟とも、国土の歴史的景観に寄与していると評価されました。



←正面より

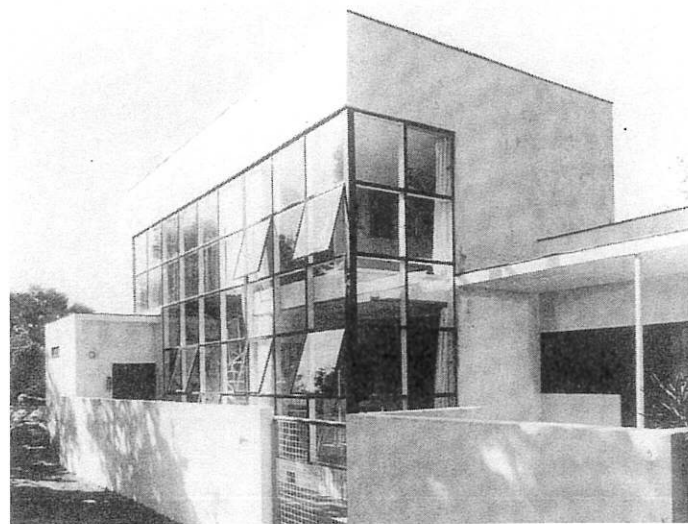
↓屋根部分



三岸家住宅アトリエ（上鷲宮2丁目）

画家三岸好太郎・節子夫妻のアトリエとして設計され、昭和9年（1934）に完成しました。昭和33年（1958）に玄関部分が増築されています。

すっきりした主体部に大きな窓を開け、内部は吹抜けのアトリエに螺旋階段を設けます。施主の感性とドイツで建築を学んだ設計者の理念が形になったものです。都内でも希少な戦前の木造モダニズム建築として、造形の規範になっていると評価されました。



←完成当初の様子

↓現在のアトリエ内部



おもちゃ絵の世界

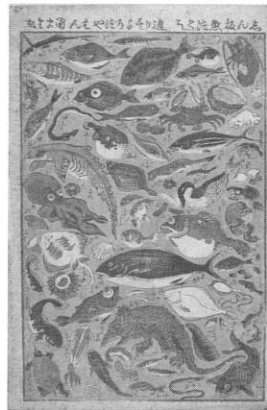
子どものための浮世絵

日本を代表する芸術、浮世絵と同じ技法で制作された「おもちゃ絵」をご存知ですか？おもちゃ絵は江戸時代後期から明治にかけて作られた子どものための木版多色刷りで、当時は「手遊び絵」と呼ばれていました。もともと浮世絵製作に携わっていた絵師、彫師、刷師などの職人たちが、浮世絵ブームの衰退に前後しておもちゃ絵の製作に移行します。しかし、子ども向けとはいえ、一流の技術を持った職人たちが作る作品はどれも見事です。中でも「おもちゃ絵のよし藤」とよばれた歌川芳藤（1828-1887）はおもちゃ絵に情熱を注ぎ、すばらしい作品を多く残しており、当館にもよし藤の作品が多く収蔵されています。

おもちゃ絵の一枚のサイズはA4より少し大きめ。この一枚に子どものための様々な遊びや知識がぎゅっと詰まっています。そこに描かれているテーマは、大きく4つに分類できます。①尽くしもの・・・動物や魚、山車などのテーマに沿った

絵をずらりと並べ、現代の図鑑のような役割の役割のもの。②擬人化・・・猫やウサギなどの動物が人間のように振舞うさまをユニークに描いたもの。③切り貼り・・・切り取って着せ替え遊びや、めんこを作ったり、雛段を組み立てるもの。④言葉遊び・・・しりとりやなぞなぞ、語呂合わせなど。

当時の子どもたちはおもちゃ絵で動物や物の名前を覚えたり、一生懸命ハサミで切り取って着せ替え遊びやめんこ遊びを楽しんだことでしょう。カラフルでかわいらしいおもちゃ絵を眺めていると自然とそのような光景が目に見えてきます。



魚つくし



相撲めん合

中野往來

中野に来た“商う人々”

口伝てに語られてきた中野の昔話や体験や伝説を調査した際に「イワシこい」という話が多く聞かれたといえます。

「イワシこい」

昔はね、この辺でもね、物売りってというのが来たんですよ。「イワシこー、イワシこーい」なんてね。イワシ秋にとれるとね、売って歩くね。そのほかにいろんなね、まあ物売り来てね。そういうときに、ちょっと話が出てね、「あれ、イワシこーいなんて売ってるけど、あんなのなんだかわからねえや」なんてね、言ったら、そのときの話だろうと思うんですけどね。そしたら、その何か、こうイワシ(屋)かなんか、来たらね、「ふるい、ふるい」なんてね、ふるい屋が来たんです。そしたら、「とんでもねえ野郎だ。なんだ、おれのイワシは古くねえんだ」ったらね、「大丈夫だよ、後からね、来るのがちゃんと言い直すから」なんて。「なん

だ」ったら、ふるかね屋が「ふるかねやー、ふるかねやー」って言ったって。

落語にもある話ですが、「これは、本当の話だよ。この早稲田通りを通るわけ。それは、ほんとに来ましたよ」という話者もいたといえます。現在では、ほとんど見られない物売りや直し屋、芸人が中野のあちこちに度々訪れたようです。

鷺宮に来た物売り/直し/芸人	江古田(明治末から大正時代の記録より)	本郷(大正末期の記録より)
煮豆屋 豆腐屋 魚屋	魚売り 定斎屋	魚屋 金魚売り
鯛屋 玄米パン屋 あめ屋	鯛売り ふるい屋	葉唐辛子屋
納豆売り いり豆腐屋	菓売り オジンメ売り	いなごや 豆腐屋
唐辛子屋 金魚屋 呉服屋	よかよか飴売り	紙芝居
菓屋 富山の菓売り 種屋	箕直し 鑄掛屋 羅宇屋	おしん粉細工
羅紗屋 桶屋 新聞号外売り	三河万歳 角兵衛獅子	玄米パン屋
箕直し 砥ぎ屋 鑄掛屋	太神楽獅子 猿回し	えんどう豆屋
こうもり傘直し 下駄歯入屋	願人坊主 托鉢坊主	べっ甲飴屋
瀬戸物直し 髪床羅宇屋	祭文語り ゴゼノボー	アイスクリーム屋
虚無僧 ござ 手風琴引き	山伏 節季候(セキゾロ)	羅宇屋 鑄掛屋
三河万歳 獅子舞 猿回し		

『妙正寺川とともに』『江古田のつれづれ』『七十年の記録』より

事業報告

各種事業経過

2013年10月～2014年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「絵馬展」 「おひなさま展」 「竹のある暮らし」 「音の文化」	10/19～12/8 2/8～3/9 4/19～6/1 7/10～8/31
特 別 展	「昭和の民間療法と家庭の医学展」 「運ぶ展」 「いろいろなはかり」 「おもちゃ絵とすごろく」	11/16～12/15 1/11～2/15 5/31～7/27 8/30～10/12
夏 休 み 座 講	体験イベントれきみんサマーフェスタ 「鯛車作り」7/22「学習相談」7/21～8/31「紋切りうちわ作り」7/23「自力で火おこし」7/24・8/23「小田原提灯作り」7/25「むかしのくらし体験」7/29・30「お面作り」7/31「勾玉作り」8/2・5・22「張り子作り」8/6「拓本体験」8/8「あんぎん編み」8/12「貝合わせ」8/14「押し絵作り」8/19「むかしの遊び工作」8/21	
講 座	古文書講座 講師：笠原綾氏、大友一雄氏 伝統文化体験教室 講師：神田山緑氏	10/12～11/16 10/6・13・27
公 開 事 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	10/1～12/1 4/26～5/11
埋 蔵 文 化 財 対 応	江古田三丁目3番民有地立会 (7/1) 江古田一丁目24番民有地試掘 (7/8) 国庫補助 江原町二丁目29番民有地立会 (7/19) 本町二丁目33番民有地立会 (7/22) 弥生町五丁目20番民有地立会 (11/26) 若宮一丁目10番民有地試掘 (8/1) 国庫補助 江原町二丁目1番民有地試掘 (8/19) 松が丘一丁目10番民有地立会 (8/20) 弥生町四丁目7番民有地立会 (8/21) 新井四丁目18番民有地立会 (9/2) 鷺宮四丁目20番民有地立会 (9/6) 白鷺三丁目5番民有地立会 (9/6) 白鷺三丁目5番民有地立会 (9/6) 江古田一丁目34番民有地立会 (10/15) 沼袋二丁目17番民有地試掘 (10/23) 鷺宮四丁目20番民有地立会 (10/25) 野方三丁目14番民有地立会 (10/25) 南台五丁目33番民有地試掘 (10/30) 南台二丁目9番民有地試掘 (11/5) 江古田二丁目13番民有地立会 (11/6) 南台二丁目11番民有地立会 (11/22) 若宮一丁目4番民有地試掘 (11/25～11/26) 国庫補助 富士見中学校跡地試掘 (12/9～12/13) 国庫補助 富士見中学校跡地試掘 (12/11～12/20) 南台五丁目32番民有地立会 (2014/1/7) 弥生町六丁目9番民有地立会 (1/8) 江古田三丁目7番民有地立会 (1/10) 沼袋二丁目27番民有地立会 (1/16) 国庫補助 松が丘一丁目34番民有地確認 (3/3) 国庫補助 江原町二丁目1番民有地立会 (3/19) 江古田二丁目12番民有地立会 (3/28) 国庫補助	
そ の 他	小学校総合学習見学 22校	9月～8月

寄贈資料一覧

2012年11月～2013年8月

敬称略：受入順

資 料 名	点数	氏 名
懐紙入れ、財布ほか	一括	矢島 孝子
観音講・念仏講道具	一括	石井 とき子
柱時計 (ゼンマイ式)	1	的場 裕子
雛人形一式	一括	奥平 博子
五月人形	一括	船橋 光
疎開日記・手紙ファイル	2	稲永 明子
雛人形、五月人形一式	一括	大岡 紀子
魚屋・開店祝看板	1	細井 淳一

◎貴重な資料をありがとうございました。
厚く御礼申し上げます。

入館状況

2013年9月～2014年8月 (延べ296日間) (人)

一 般	団 体	学校教育	合 計
21,844	5,468	1,183	28,495

発行年月日 2014年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119